（別紙様式４）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和　2年　10月9日

（前回公表年月日：令和 元年6月1日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
ILPお茶の水医療福祉専門学校	1996年1月30日	大久保　芳隆	〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名1丁目9-51 （電話）　092-731-7421
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人ILP学園	1996年1月30日	吉井　盛治	〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名1丁目9-51 （電話）　092-731-7421

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療福祉教育専門課程	診療情報管理科	平成6年文部科学省 告示84号	－

学科の目的	本学科は、診療情報管理士の認定資格のための指定科目履修を行い、診療情報管理士の専門的な知識を身につけ診療情報管理職の養成を図っていくとともに、医療機関での実習及び診療情報管理学会での発表、校外の勉強会への参加を通して、人間性・協調性の向上や医療機関に貢献できる人材育成を目的とする
認定年月日	2016年2月28日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3　年	昼間	3360時間	2280時間	840時間	240時間	0時間	0時間 時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人	53人	**0人**	6人	15人	21人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 学期ごとに定期試験や出席状況等を基に、Ａ～Ｄの4段階で評価Ａ～Ｃは合格。Ｄは不可。
長期休み	■夏　季：8月12日～9月25日 ■冬　季：12月23日～1月12日 ■学年末：2月19日～3月31日	卒業・進級条件	・指定科目をすべて履修し、学年毎に必要単位数を取得すること。 ・学生としてふさわしい生活態度の者。
学修支援等	**■クラス担任制**：　有 **■個別相談・指導等の対応** 学習においては教職員による個別指導等で支援。また、クラス担任による定期的な個別面談と現状把握、保護者への情報提供。その他、担任によるＨＲやキャリア教育等を行い指導・支援を強化。	課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	**■主な就職先、業界等（令和元年度卒業生）** 病院、電子カルテインストラクター ■就職指導内容 1年～3年次に週1回、教養演習の時間を設定し、社会人としてのマナーや就職指導・適正検査・一般常識問題・履歴書の書き方・面接 ■卒業者数 ：　26　人 ■就職希望者数 ：　26　人 ■就職者数　26　人 ■就職率　：　100　% **■卒業者に占める就職者の割合** ：　100　% ■その他 ・進学者数：　0人 （令和　元 年度卒業者に関する 2020年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報） ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
日本病院会認定 診療情報管理士認定試験	③	26人	21人
財）診療報酬請求事務能力認定試験	③	26人	22人
ＩＴパスポート	②	26人	9人

■中途退学者　4 名　■中退率　0.9 %

平成31年4月1日時点において、在学者57名（平成31年4月1日入学者を含む）

令和2年3月31日時点において、在学者53名（令和2年3月31日卒業者を含む）

■中途退学の主な理由

中途退学 の現状	・進路変更や健康問題によるもの ■中退防止・中退者支援のための取組 ・クラス担任による定期的な個人面談の実施により、学生の状況把握に努めている。 ・日々の遅刻欠席の管理及び学生指導。遅刻・欠席が続く場合は保護者への連絡等、早期対応により防止に努めている。
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　　有 特待生制度、部活動特待生、ファミリー入学、生徒会活動、皆勤、離島奨学金、資格・検定取得 ■専門実践教育訓練給付：　　給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページＵＲＬ）
当該学科の ホームページ ＵＲＬ	https://www.ochanomizu-f.ac.jp/information/

１．「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（１）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

診療情報管理士認定の資格取得のため、日本病院会の必修カリュキュラムを中心に授業科目を編成しており、必修カリュキュラムと併行し、医療機関での実習を通して、連携を密にしながら指導を仰ぎ、医療機関が求める専門職としての人材育成を目指していくことを基本方針とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

授授業は、日本病院会の指定カリュキュラムが中心で行われているが、教育課程編成委員会の中で、教育方針、授業内容、資格取得等に関する指導体制、個々に応じた教育到達レベル等の意見。提言を参考にしながら活用し、より効率的に実践的な内容を学べる環境や方法改善に取り組んでいく。

（３）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年10月9日現在

名　前	所　　属	任期	種別
谷口　研一朗	佐賀県診療情報管理懇話会会長・さが恵比寿メンタルくりにっく院長	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	①
笠　修彰	一般社団法人　福岡県精神保健福祉士協会理事	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	②
伊藤　哲	公益社団法人　福岡県社会福祉士会理事	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	②
渡邊 節子	特定医療法人財団博愛会博愛会病院　医事課課長　診療録管理室室長	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	③
宮﨑　聡	医療法人社団桜珠会　可也病院　医療福祉相談科主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	③
大久保　芳隆	ILPお茶の水医療福祉専門学校　学校長		
井上　明信	ILPお茶の水医療福祉専門学校　事務長		
平田　覚	ILPお茶の水医療福祉専門学校　教務部		
飯干　真冬花	ILPお茶の水医療福祉専門学校　教務部		
松下　華子	ILPお茶の水医療福祉専門学校　教務部		
歌野　裕子	ILPお茶の水医療福祉専門学校　広報室室長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（１企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回 （11月、2月）

（開催日時（実績））

第１回　令和2年11月14日　11：00～　（開催予定）

第２回　令和3年2月20日　　11：00～　（開催予定）

（５）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・診療情報管理士認定試験　基礎項目課程の理解度を上げるために、1年次よりドクターによる臨床医学各論を実施している。

・担当する医師が通年で行うことにより、わかりやすく統一した理解ができるようカリキュラムの変更を行っている。

２．「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（１）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習を通して、適切な診療情報管理及び診療記録の重要性について理解を深める。また、職員が協働して実習の目的・役割を果たせるよう、医療機関と連携を図りながら実習を行うことを基本方針とする。

（２）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

基本方針に則って実習内容を策定し医療機関へ依頼。その後、担当職員と医療機関担当者との打ち合わせにおいて、実習学生や内容の情報提供、また評価依頼等を行う。実習巡回において、学生の実習態度や指導内容等についての情報交換を行い、学生指導に活用している。また、実習終了後は、評価結果を踏まえクラス全体での振り返りや個別面談等を行い、指導の一環とするとともに、成績評価に繋げている。

（３）具体的な連携の例※科目数については代表的な５科目について記載。

科目名	科　目　概　要	連携企業等
病院現場実習 （医事課・支援課）	医療機関での現場実習を通し、実践的な知識や技術を修得する。	福岡赤十字病院、大牟田市立病院、新行橋病院、福田病院、かりゆし病院、唐津赤十字病院、熊本医療センター、佐世保市総合医療センター等
病院現場実習 （診療情報管理）	医療機関での現場実習を通し、診療情報管理士としての実践的な知識や技術を修得する。	福岡大学病院、九州大学病院、九州医療センター、福岡赤十字病院、大牟田市立病院、井上病院、北九州総合病院、古賀病院21、福田病院、熊本地域医療センター等

３．「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（１）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

関連団体研修会への参加や外部講師招聘による研修、並びに学内における勉強会の実施、実習・就職先との意見交換等により、医療界の最新情報や動向を知るとともに、職務に必要な専門知識、技術、能力の修得を図る。また、教員研修などにも参加し、学生指導など教員としての能力や資質向上を図ることを基本方針とする。

（２）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等
（研修名）「第16回　佐賀県診療情報管理懇話会」
（連携企業等） 佐賀大学医学部附属病院
（期間） 令和元年6月1日（土）
（内容） 心臓血管外科領域における治療戦略の変化と緩和医療の役割　等
（対象） 科目担当教員　1名

（研修名）「第80回　診療情報管理士認定授与式」
（連携企業等） 一般財団法人　日本病院会
（期間） 令和元年5月26日（日）
（内容） 診療情報管理士認定授与及び報告
（対象） 科目担当教員　2名

（研修名）「診療情報管理士教育事業に関する説明会」
（連携企業等） 一般財団法人　日本病院会
（期間） 令和元年6月27日（木）
（内容） 次年度診療情報管理士認定試験の概要説明及び前年度の報告
（対象） 科目担当教員　1名

（研修名）「第45回　日本診療情報管理学会学術大会」
（連携企業等） 日本診療情報管理学会
（期間） 令和元年9月19日（木）～9月20日（金）
（内容） 明日を担うInformation　Literacy
（対象） 科目担当教員　3名

（研修名）「第18回　佐賀県診療情報管理懇話会」
（連携企業等） 佐賀大学医学部附属病院
（期間） 令和元年12月8日（日）
（内容） 記録の涵養を図る～先達の教えを生涯の命題としてつなぐ～　等
（対象） 科目担当教員　2名

②指導力の修得・向上のための研修等
（研修名）「福岡県糟屋筑豊勉強会」 第39回-第44回
（連携企業等） 福岡県糟屋筑豊勉強会
（期間） 平成31年4月20日（土）・令和元年6月22日（土）・8月24日（土）・10月19日（土）・12月14日（土）・令和2年2月22日（土）
（内容） 職場コミュニケーション、働き方改革と仕事の効率化、カルテ・診断書記載、がん登録、診療報酬改定、高度な窓口対応等
（対象） 科目担当教員　2名

（研修名）「日本病院事務次世代交流会」 第3回
（連携企業等） 日本病院事務次世代交流会
（期間） 令和元年7月13日（土）
（内容） こころの健康と医療コミュニケーション
（対象） 科目担当教員　1名

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
第18・19回　佐賀県診療情報管理懇話会、第81回　診療情報管理士認定授与式、診療情報管理士教育事業に関する説明会、　第46回　日本診療情報管理学会学術大会等参加予定

②指導力の修得・向上のための研修等
福岡県糟屋筑豊勉強会」 第45回～、日本病院事務次世代交流会　第4回～等参加予定

４．「学校教育法施行規則第１８９条において準用する同規則第６７条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会における委員の提言や意見等を踏まえたうえ、学校運営や教育活動、ガイドラインの各項目における改善点を見出し、学校及び学生の質、教育環境等の向上を図っていくことを基本方針とする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	教育理念・目標
（2）学校運営	学校運営
（3）教育活動	教育活動
（4）学修成果	学修成果
（5）学生支援	学生支援
（6）教育環境	教育環境
（7）学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
（8）財務	財務
（9）法令等の遵守	法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

本校は、豊かな人間性を涵養するとともに、福祉分野においては「社会福祉主事任用資格」、国家資格である「社会福祉士並びに精神保健福祉士受験資格」、また医療分野においては日本病院会認定「診療情報管理士」や医療事務職に必要な診療報酬請求事務能力認定試験等の取得に向け特定のカリキュラムを組み、基本方針を実行しながら「全員受験、全員合格、全員就職」をモットーとしている。毎年の資格取得率や就職率の実績を踏まえ、各項目において大筋の評価を得ているが、引き続きより良い学校運営や環境作りに向けて、貴重なご意見を参考に施策を図っている。

（４）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年10月8日現在

名　前	所　　属	任期	種別
谷口　研一朗	佐賀県診療情報管理懇話会会長・さが恵比寿メンタルくりにっく院長	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	企業等委員
笠　修彰	一般社団法人　福岡県精神保健福祉士協会理事	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	企業等委員
渡邊 節子	特定医療法人財団博愛会博愛会病院　医事課課長　診療録管理室室長	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	企業等委員
宮﨑　聡	平成13年ソーシャルワーク科（現　福祉総合学科）卒業生	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	卒業生
藤本　大樹	平成17年医療情報管理科（現　診療情報管理科）卒業生	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	卒業生
伊藤　哲	平成18年ソーシャルワーク科（現　福祉総合学科）卒業生	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。　（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（５）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL:https://www.ochanomizu-f.ac.jp/information/

公表時期：令和2年10月9日

５．「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

病院や企業等と連携を密にし、学校運営を行っていくためには、現在の実習や研修内容のより一層の充実と、教員の訪問時に意見交換等のシステム化を図るとともに、より一層の相互交流を図っていくことが重要である。また、本校の現状を教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会等の開催、研修会等を通して、情報提供を行い、意見や提言をいただくことによって当校の教育活動等に反映させていくことを基本方針としている。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	各学科等の教育
（3）教職員	教職員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
（6）学生の生活支援	学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
（8）学校の財務	学校の財務
（9）学校評価	
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

ホームページ

URL:https://www.ochanomizu-f.ac.jp/information/

授業科目等の概要

	（社会福祉専門課程福祉総合学科）令和２年度																		
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			臨床医学各論	医学的基礎と多岐に渡る疾患概念や診断・治療法について履修し、日々取り扱う診療記録を、単に実践された医療行為が科学的に記録されたものだけではないことを理解する。	1通	120	8	○			○			○	
2	○			医療管理総論	医療の成立と社会資源の必要性を理解し、「人的資源」「物的資源」「財的資源」を具体的に理解する。	1前	30	2	○			○			○	
3	○			医療管理各論Ⅰ	病院は医療の実践の場である。その病院を的確に維持、運営していく上で重要な、病院経営管理をはじめとする基礎的な知識を身につける。	1後	30	2	○			○			○	
4	○			診療情報管理Ⅱ	診療情報管理士の専門性について理解し、医療に貢献する診療情報管理を実践していくための能力の基礎を身につける。	1後	30	2	○			○			○	
5	○			国際統計分類Ⅰ・Ⅱ	わが国の人口動態統計のしくみと意義を理解する。また、人体構造（解剖生理）等で学習した知識を生かし、ICD-10に沿った疾病分類統計を学習する。	1通	60	4	○	△		○			○	
6		○		医科医療事務	医療事務の基礎（保険のしくみ）から応用（何度の高い入院の診療報酬明細書の作成）までの学習方法を指導し、「算定根拠をしっかりと考える力」を身につけ、医療事務検定1級、医療秘書検定3級、診療報酬請求事務能力認定試験合格を目標とする。また、「求められる人材として守るべき社会のルール」も指導し応用力をつける。	1通	300	20	○	△		○		○		
7		○		診療報酬研究Ⅰ	「診療報酬請求事務能力認定試験」合格を目標とし、過去問を含めた模擬試験を行い各自の問題点克服を行う。	1通	120	8	○	△		○		○		
8		○		医療事務コンピュータ・　　電子カルテ	医療事務コンピュータの正しい操作方法を習得。医療事務で習得した外来算定知識を基に、より正確、迅速な医事会計を目指し、医科医療事務コンピュータ検定2級（1月実施）の合格を目指す。（電子カルテ）医師の指示によりカルテを入力する技術を身につける。	1通	60	4	○	△		○		○		
9		○		医学総論	医療に携わる者に必要な豊かな感受性の育成と、医療の質の向上に貢献する診療情報管理士資格取得を目的とする。	1通	60	4	○			○		○		
10		○		医療コミュニケーション	社会人としてのビジネスマナーの重要性を理解し、秘書検定3級合格を目指す。	1前	30	2	○	△		○			○	
11		○		教養演習Ⅰ	診療情報管理士の業務や役割を理解する。　　また、医療機関での実務見学を行うことで、将来「働く」イメージ像をつかむ。	1通	60	4	○			○		○		
12		○		情報処理Ⅰ	Excel、Word、PowerPointなど、コンピュータシステムの基礎的情報活用能力を身につける。また、情報社会における諸問題や情報倫理、コンピュータに関する基礎的な事項について解説し、情報を正しく取り扱う姿勢や態度を培う。	1通	60	4	○	△		○			○	
13		○		医療用語	医療現場で使用される医学用語を理解し、更に各部署の事務処理やコミニュケーションの担い手として連絡調整ができ、診療録を正確に読めるようにする。	1通	60	4	○			○		○		
14		○		臨床検査学	医療に携わる者として臨床検査の基本的知識を身につけることを目標とし、数多い検査項目の中でも、一般的によく使われる項目・略語を含め、正確な病気の認識、及び、疾患と検査項目の関連性を習得。	1後	60	4	○			○			○	
15		○		キャリア・ サポート・ プログラム	個人ワークおよびグループワークを通して、自分自身のキャリアを考え、自らのキャリアを選択・決定する。社会人基礎力を身につけていく。	1通	60	4	○	△		○		○		
16	○			臨床医学各論	各疾病について、その分類の意味とその原因、症状、所見、診断根拠、治療法などを理解し、疾病の適切なコーディングにつながる知識を修得する。	2通	120	8	○			○			○	
17	○			医療管理各論Ⅱ	社会保障制度としての医療保険・介護保険を理解し、診療報酬制度および診療報酬請求業務までを学ぶ。また、DPCを活用し包括した包括評価請求を知ることで、診療情報管理の重要性への理解を深める。	2前	30	2	○			○			○	

18	○			医療管理各論Ⅲ	質の高い安全な医療を提供するためには、医療安全管理と医療の質管理は、極めて重要である。さらには、DPCや診療報酬制度におけるデータ活用は、医療の質や経営の質のみならず病院の将来を決定する計画策定のための重要指標となる。そこに必要な基礎知識を深め、その対応力を備えることを目的とする。	2後	30	2	○			○			○	
19	○			保険医療情報学	情報通信技術（ICT）を活用した的確な診療情報管理がいかに保険医療の質の向上に貢献し得るのかを学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
20	○			医療統計Ⅰ	診療情報を活用するための基礎として統計処理の基礎知識、根拠に基づいた医療、データ処理の実際を学び、求められる診療情報のクォリティマネジメントの考え方を身につける。	2前	45	3	○			○			○	
21	○			医療統計Ⅱ	情報化の手段として基礎的なグラフ表現と実際に求められる病院統計の手法を学び、単なるテクニカルな面で終わることなく、データを扱う上での研究方法や倫理を学ぶ。	2通	45	3	○			○			○	
22	○			診療情報管理Ⅰ	診療情報管理の意義と役割について系統的に学び、法令や諸規則を含め、診療情報の記録方法が機能的にどのような構成やルールをとっているかを学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
23	○			診療情報管理Ⅲ	DPC業務や医師事務作業補助者業務、がん登録業務等について、実際に実務上求められることを踏まえて、実務者の視点から学習する。	2後	30	2	○			○			○	
24	○			国際統計分類Ⅰ・Ⅱ	国際統計分類群に属する分類体系についての理解を深め、情報に関する幅広いコード体系についての意義と問題点を理解する。また、退院時要約や死亡診断書等を用いて診療記録の記載内容を把握し、主傷病等の診断名および統計上必要な分類コードを選択できる知識を学ぶ。	2通	60	4	○	△		○			○	
25		○		医科医療事務	1年次で学習したことを基礎とし、カルテの内容から「考える」力を身につける。病院実習で困らないよう、実務上必要なスキル及び診療報酬請求能力のさらなる応用力を身につける。（公費併用、DPC含む）	2前	60	4	○	△		○		○		
26		○		医療事務コンピュータ・　　電子カルテ	医療用語、病院用語を実践で正しく使い、入院算定を入力する技術を身につける。また、医療事務コンピュータ検定1級の合格を目指す。（電子カルテ）1年次の復習と応用を行う。	2通	60	4	○	△		○		○		
27		○		医療コミュニケーション	社会人として、ビジネスマナーの重要性を理解し、コミュニケーションスキルを身につけ、秘書検定2級及びビジネス文書3級合格を目指す。	2通	60	4	○			○			○	
28		○		医療情報基礎知識	医療情報を取り扱う者が共通に持っておくべき基礎的な知識（8領域）を習得する。	2通	60	4	○			○			○	
29		○		医療情報技師論	医療情報技師に必要な、医学・医療系、医療情報システム系について学ぶ。	2後	60	4	○			○			○	
30				医療情報処理技術論	医療情報技師に必要な、医療情報処理技術について学び、過去問題の演習を行う。	2後	30	2	○			○			○	
31		○		教養演習Ⅰ	診療情報管理士実習前の職業理解を行い、受付業務から診療情報管理業務、患者接遇についての学習を行う。	2通	60	4	○			○		○		
32		○		情報処理Ⅰ	1年生で得たExcel、Word、PowerPointの基礎的情報活用能力を更に発展させ、コンピュータなどの情報機器を問題解決等の場面で自在に活用できる力を身につけます。目標資格MOS	2通	60	4	○	△		○			○	
33		○		ＩＴパスポートⅠ	ITを利活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験。具体的には、経営戦略、マーケティング、財務、法務など経営全般に関する知識をはじめ、セキュリティ、ネットワークなどのITの知識、プロジェクトマネジメントの知識など幅広い分野の総合的知識を学ぶ。	2後	30	2	○	△		○		○		
34		○		薬理学	医療事務に求められる薬の基本知識を学ぶ。また、医薬品が生体に作用する過程を理解するために、代表的な医薬品の作用や作機序に関する基礎知識の習得。薬物の臨床応用や副作用などを理解する。	2前	30	2	○	△		○			○	
35		○		がん登録	国立がん研究センター実施の「がん登録実務初級者認定試験」の合格を目指し、がん登録に関する基礎知識の習得を行う。	2後	15	1	○			○			○	
36		○		医師事務補助	医師事務作業補助体制加算の条件追加等により、ますます需要が増える見込みの医師事務作業補助者の求人に対応できるように、医師事務作業補助検定合格を目標とする。	2前	30	2	○	△		○			○	
37	○			病院臨床実習（医事課）	実習を通し、学び習得した知識や技術を生かすことができるよう現場に臨み、実践と融合させることにより知識の再確認や不足点などを自認する。また、「医療事務職」として必要な資質や、能力を見極め今後の努力目標とする。	2後	80	1			○		○			○
38			○	診療報酬研究Ⅱ	「診療報酬請求事務能力認定試験」合格を目標とし、過去問を含めた模擬試験を行い各自の問題点克服を行う。	2前	60	4	○	△		○			○	

39	○			臨床医学各論	人体の解剖生理、各疾患の原因、症状、検査、治療、医学用語等　各章ごとの講義、その後テストを行い理解度を深める。	3通	60	4	○	△		○			○	
40	○			専門・診療情報管理各論	医療管理、保険医療情報、診療情報管理等　各章ごとの講義、その後テストを行い理解度を深める。	3通	120	8	○	△		○			○	
41	○			国際統計分類Ⅰ・Ⅱ	診療情報管理における質の高い診療録の精度管理、医療情報の利活用の手法である正確なコーディングの目的を理解するとともに、情報化社会における医療情報の標準的、基本的な分類の把握および問題を判断することができることを目標とする。	3通	60	4	○	△		○			○	
42	○			医療統計　　Ⅰ・Ⅱ	医療統計Ⅰ・Ⅱごとの講義、その後テストを行い理解度を深める。	3通	60	4	○			○			○	
43		○		医療コミュニケーション	社会人としてコミュニケーションを学び、話す・聞く・読む・書くスキルについて向上を目指し、就職試験に挑む。また、ビジネス文書2級の合格を目指す。	3通	60	4	○	△		○			○	
44		○		医療情報技師論	過去問題集を基本に演習を行い、医療情報技師資格取得を目指す。	3前	60	4	○			○			○	
45		○		医療情報処理技術論	医療情報技師に必要な、医療情報処理技術について学び、過去問題の演習を行う。	3前	30	2	○	△		○			○	
46		○		がん登録	国立がん研究センター実施の「がん登録実務初級者認定試験」の合格を目指し、がん登録に関する基礎知識の習得を行う。	3前	15	1	○	△		○			○	
47		○		臨床医学特講	診療情報管理士認定試験合格を目指し、各章ごとのオリジナル問題を使用し理解を深める。	3通	60	4	○	△		○		○		
48		○		教養演習Ⅰ	社会人として、就職に有利になるような話し方・笑顔や態度、服装、面接への挑み方等を実践的に学習を行う。	3通	60	4	○	△		○		○		
49		○		教養演習Ⅱ	「日本診療情報管理学会」の学生セッション発表を目的とし、期日までに抄録、発表原稿、パワーポイントの作成ができ、発表を堂々とできるよう学習する。	3通	30	2	○		△	○		○		
50		○		医療簿記	本講の簿記は、病院や歯科医院における財貨・用役または貨幣の流れを、一定の理法によって、記録・計算・整理する諸手続きのことをいう。コ・メディカルに勤務するものはすべて、この社会的技術としての医療簿記を体得する必要がある。	3後	30	2	○	△		○		○		
51		○		情報処理Ⅱ	Accessを使用して、データベースの考え方、構造を学び、情報化を担う人材として活用できる知識と技術を習得することを目標とする。	3通	60	4	○	△		○			○	
52		○		ＩＴパスポートⅠ・Ⅱ	ITを利活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験。具体的には、経営戦略、マーケティング、財務、法務など経営全般に関する知識をはじめ、セキュリティ、ネットワークなどのITの知識、プロジェクトマネジメントの知識など幅広い分野の総合的知識を学ぶ	3通	90	6	○	△		○			○	
53		○		国際統計分類特講	診療情報管理士認定試験合格を目指し、国際統計分類及び死因分類のルールと実際について、オリジナル問題を使用し理解を深める。	3通	30	2	○	△		○			○	
54	○			病院臨床実習（診療情報管理士）	実習を通し、学び習得した知識や技術を生かすことができるよう現場に臨み、実践と融合させることにより知識の再確認や不足点などを自認する。また、「診療情報管理士」として必要な資質や、能力を見極め今後の努力目標とする。	3前	160	3			○		○			○
55			○	保育総合演習	保育士資格の取得を目指し、乳幼児に関する基本的な知識を身につける。また、資格試験の過去問題を解くことで問題の傾向を知り、学習の仕方を学ぶ。	1通	60	4	○	△		○			○	
56			○	手話	テキストに沿って、手話の基本文法を習得し、手話検定取得を目指す。	1通	60	4	○	△		○			○	
合計					56科目	3,360単位時間（　212単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。